

映画を活用して英会話力を向上させるための3つのヒント

平成30年度 3年 2組(16) 小島萌
指導 法文部人文社会学科 寺尾勝行

【研究の動機】

私は去年、アメリカの高校生に外国語学習についてのアンケートを行った。その中で特に気になったのは、外国語学習における目的と方法が私たちと違っていったことだ。アメリカ人は映画や漫画を字幕なしで見えるために学習している生徒が多く、学習の際も映画を用いている。そのため、語学学習を楽しんで行っている印象を受けた。それを応用させ、日本人でももっと楽しみながら語学の学習ができるのでは？という提案をしてみたいと思った。

【観点】

次の3つの観点から効果的な学習方法の提案を行いたい。

- ①ネイティブの仕草を知る
- ②ネイティブの会話部分から学ぶ
- ③発音の仕方

【観点①】～仕草と言葉を効果的に結びつけることを学ぶ～

〈映画を使う意義〉

映画では音と映像が同期している。そのため生きた英語を学ぶことができ、感情がかみ合っていない不自然な会話を解消することができる。

〈ねらい〉

感情や動作を伴った自然な英会話を学ぶ。アメリカ人独特の動作があることを理解し、その重要さに気づく。

〈方法〉

教材としての映画には音と映像のシンクロナイズしている特殊性があり、それを生かす形で発言と感情がかみ合うような「生きた」英会話を身につけることを学習目標とする。実際の学習では、登場人物の感情とその時の動作に注目してロールプレイを試みるというのではないかな。

【観点②】～状況に応じた発話の練習～

〈映画を使う意義〉

他の教材とは違って、話し言葉に特徴的な表現が使われている。自分の知っているボキャブラリーを豊かにし、英会話にも役立つ。

〈ねらい〉映画の中で使われた独特な表現を学び、他の言い方を考え、英語の発想力を鍛える。

〈方法〉

授業では、あるシーンで使われていた独特な表現についてクイズ形式にして生徒に考えてもらう。最初は日本語訳の会話を見せ、独特な言い回しについて自分で英作文をつくる。その後正解の英文を括弧抜きにして単語を当てる。英語の話し言葉における特徴的な表現を知る。

【観点③】～英語の話し言葉の自然なリズム、音変化を練習する～

〈映画を使う意義〉

映画では自然な発音とスピードで繰り返し聞くことができる。また、映像から話す際の息遣いや特定の口の形を確認できる。

〈ねらい〉

映画の自然な速度と発音を聞き取り、その意味が正しく分かるリスニング力を向上するためにも必要な「聞く力」の向上を目指す。

〈方法〉

意味語・機能語や音変化の原則を学んだ上で、ディクテーションを行う。プラスαでリピーティングやオーバーラッピングも行う。

映画では歌と会話の2種類で構成されているため、それぞれ違った方法を試す。

【まとめ・結論】

- 「英語力の向上」というテーマで様々な角度から考えることができた。
 - 各観点到に注目して映画を鑑賞しているうちに自然と映画を繰り返し見ることで内容を理解することができた。
 - 分からなかった表現やジェスチャーについても知ることで各場面の理解につながった。
- 映画には他の教材ではできない様々な学習方法がある。また、学習していくうちにストーリーを理解できるようになることが映画での学習の魅力だと思った。

著作権により
公開できません

《参考書籍》『ローマの休日』を観るだけで英語の基本が身につくDVDブック（藤田英時）

《研究に使った映画》「ハイスクール・ミュージカル」

【謝辞】

この研究の準備・指導をしてくださった愛媛大学法文学部の寺尾勝行先生、また課題研究のための授業や進路を考えてくださった濱松先生、本当にありがとうございました。